

男女共同参画社会

十文字中学校2年

山崎 柚乃

農業は「男の世界」だと思えますか？

変わってきてはいますが、現状はまだ同じです。なぜなら、機械を使ったり重いものを運んだりと女性には難しいとされ男性の世界と言われてるからです。そんな中、母は新たな挑戦として「いちごづくり」を始めました。最初に農業を始めるために相談をしてみました。相談していた職員の女性から「女の人が男の人並みに働くのは無理ですよ。」とそこでも門前払いされました。母

は「なんでまだ始めてもないのに決めつけられないといけないんですか。家事も育児もしながらは大変だと思うけど、それも覚悟の上で相談に来たんです。一人前になるのが難しいというのなら男の人の倍以上働けばいいじゃないですか。」と怒り気味で言ったそう。母は「担当の人によってもちがうし、今改めて考えてみるとあの女の人が言ったのは正論だと思う。でも最初から決めつけるんじゃないくてできる方法を一緒に探し出してほしかった」と言っていました。やはりどんなに正論を言っても、思いやりの気持ちは必要だと感じました。また、女性は家庭と仕事の両立が難しいかもしれないけれど夢をあきらめてはいけないと思います。母は農家九年目になってもたくさんの夢を描いています。だから、母は嫌なことがあったり疲れていたりしたとしてもとても楽しそうに仕事をしています。日本は古くから男性は仕事、女性は家事という考えが根づいています。

そのような一般的な固定概念にしばられて
はいけないのです。あなたが発した「女性な
のに」「女性だから」という心ない言葉によ
って誰かが傷ついて誰かの夢がこわされてい
るかもしれません。あなたの夢はとても大切
なものです。その夢は、あきらめないでしば
られないでよいのです。でも、本当に男性に向
いている仕事もあるし女性に向いている仕
事もあります。今は、男女共同参画社会
であるといってもこの差別は消えずに社会に
居続けています。消えてなくなるにはたくさ
んの時間がかかってしまうと思います。この
差別は女性だけでは解決することはできま
せん。男性も合わせてみんなで考えていかな
ければならない問題です。みんなが差別につ
いてしっかり知ることが解決していく第一
歩なのです。人が「男性」「女性」ではなく
一人の「人間」として自分らしさをしっかり
出していくこと、自分も相手を尊重しなが
ら生きていくことが、とても大切なことなの
です。そうすることで男女の大きな壁はなく
なり、いい社会をつくることができるはずで
す。

そのように一般的な固定概念にしばられて
はいけないのです。あなたが発した「女性な
のに」「女性だから」という心ない言葉によ
って誰かが傷ついて誰かの夢がこわされてい
るかもしれません。あなたの夢はとても大切
なものです。その夢は、あきらめないでしば
られないでよいのです。でも、本当に男性に向
いている仕事もあるし女性に向いている仕
事もあります。今は、男女共同参画社会
であるといってもこの差別は消えずに社会に
居続けています。消えてなくなるにはたくさ
んの時間がかかってしまうと思います。この
差別は女性だけでは解決することはできま
せん。男性も合わせてみんなで考えていかな
ければならない問題です。みんなが差別につ
いてしっかり知ることが解決していく第一
歩なのです。人が「男性」「女性」ではなく
一人の「人間」として自分らしさをしっかり
出していくこと、自分も相手を尊重しなが
ら生きていくことが、とても大切なことなの

言葉の選択

秋月中学校一年

平田 奈々

言葉は、人を幸せにすることができるとは、私には思いません。だけど、その反面、人を傷つける凶器にもなりうると思います。

ある日、一人の男子が、私の友達の女子に対して、

「お前男子だろ。」

と笑いながら言っていました。すると、その友達は、とてもいやそうにし、小声で

「男子じゃないし。」

と泣きそうに言っていました。私はそのとき、

男子は相手の立場に立って傷つくのかどうかを考えることはできなかったのだろうかと思いました。また、もしかしたら、自分もその男子と同じように、相手が傷つくことに今まで気付かずに行ったことがあるかもしれないとも考えました。

最近では、言葉による暴力で、傷つけられたという人のニュースをよく耳にします。例えば、昼休みに学校でタブレットを使っていたら、他の生徒同士がタブレットの画面上で一人の女子生徒の名前を挙げて「うざいや」「お願いだから死んで」などとひどい言葉を浴びせ、その女子生徒が自殺したという事件をテレビで見ました。

言葉は、使い方を間違えると、人を殺してしまうほど、本当に恐ろしいものになるのです。

しかし逆に、言葉は人を温かく幸せにしてもくれます。

去年、私がバスケの練習をしているときに

同じクラスの友達から、ディフェンスをかわすときの技を教えてもらいました。そして、バスケの上手な別のクラスの男子のディフェンスを教えてもらった技でかわしてゴールを決めることができました。そのとき普段厳しい監督が、

「今のプレーよかったね。」

と言ってくれました。私は監督に認められたのがとてもうれしかったです。更に、もっと技術をみがいてもっと強くなりたいとも感じました。でも、もしこのとき監督がほめてくれなかったら、きっと私はがんばろうという気持ちにはならなかったと思います。あの監督の言葉は、今でも私の心に残っています。

今回、言葉について考えたとき、うちのおばあちゃんがよく言っていたことを思い出しました。

「人を指さすと、中指と薬指と小指が自分のほうを向いている。人にひどいことを言えば自分に三倍になって返ってくる。人に温

かい言葉を言えば、三倍になって喜びが返ってくる。」

まだ小さかった私はこの意味がよくわからなかったけど、今ようやくわかるような気がします。このおばあちゃんが言った言葉を忘れずにこれからは生活していききたいです。そのためには、やはり相手の気持ちを考えて発言しなくてはいけないと思います。

人が自殺に追いやられたり、心が傷つけられたりするようなことが、これからの社会でなくなるよう私たち一人一人が言葉に気を付けていかなければならないと思います。こうすることで、人間の自由や権利が守られるはずです。

このように言葉は、使い方しだいで凶器になったり、人をやる気にさせたり、うれしい気持ちにさせる力を持つものです。

これからは、自分の言葉の使い方には注意を払い、相手の人を傷つけないようにしていきたいです。そして、これを続けていけば、周

りも変わっていくことができると思います。

本当の笑顔

甘木中学校3年

鶴本 千里

みなさんはいじめを経験したことがありますか。いじめと聞くととても残酷であり、身近くでは起きないイメージがあると思います。ここでは、イジリと嫌がらせはどうでしょうか。これは、いじめではないのでしょうか。

私は小学校の頃、周りが気付かないような小さな嫌がらせを受けていました。他にも、変な名前でも呼ばれることもありましたが。みんなにとっては平気なことかもしれませんが、小学生の私にとってはとてもきつ

つたのを覚えていきます。さらに、中学生になるとイジリが増えてきたように感じます。みんなが「ノリ」が分かるようになったので昔に比べて私もみんなも笑って流せるようになりましたが、その友達の笑顔は、本当の笑顔でしょうか。お母さんや先生に言われました。「イジリや嫌がらせでも本人が嫌だ、悲しい、つらい」と思ったらそれはもういじめだよ」と。その言葉で私の考えが変わりました。今なら昔の自分に言いたいです。「がまんせずに友達やお母さんに相談をすれば楽になるよ」と。

みなさんはいじめを経験したことがありますか。イジリや嫌がらせを受けたことがありますか。見たことはありますか。みなさんも一緒に考えて下さい。本人が少しでもつらい気持ちになればそれは「いじめ」です。相手の心を読む人はいません。ですが「表情」というものが私達にはあります。うれしい顔、悲しい顔、怒った顔など表情で相手の気持

ちを察したり、読み取ったりすることができません。だから本当の笑顔と偽りの笑顔を見分けてください。そして偽りの笑顔をしている人を見て見ぬふりしないで寄りそってあげてください。そうすればあなたの周りには本当の笑顔が増えるはずです。私達は人をいじめたり、それを見て楽しんだりするために生きているわけではありません。人を笑顔にして幸せにするためにいます。もう一度周りを見てください。きっと私やあなたで助けられる人がいます。よく表情を見て、その表情が本当の笑顔になるようにいじめをなくせるように一歩踏み出しましょう。きっと、一人が変わればみんなも変わるはずです。

世界に平和を

南陵中学校 2年

安藤 悠真

僕は最近二つの「戦争」について考えることが増えました。一つはかつて日本も経験した太平洋戦争、もう一つは今も続いているロシアによるウクライナ侵攻です。この二つの戦争について詳しく調べてみると戦争の悲惨さや恐ろしさを改めて実感することができ、「どうしたら戦争はなくなるんだらう。」という思いが強くなりました。

今年終戦から78年になる太平洋戦争。日本では沖縄での激しい地上戦、

広島、長崎への原爆投下を含め、約310万人もの人の命が犠牲になりました。ぼくはこの戦争について詳しく知るために中沢啓治さんが書いた『はだしのゲン』を読んでみました。この漫画は広島を舞台とした戦争中の様子や生活が描かれています。この本を読んで、知らなかった戦争中のいろいろなことが分かりました。まずびっくりしたことは戦争に反対するとその家族は非国民とバカにされ、ひどい暴力や嫌がらせを受けるところでした。僕はこれを見て正しいことを言っているはずなのにどうしてこんなことをされるんだらうと悲しい気持ちになりました。次に食べ物です。僕たちが当たりまえに食べられている米は戦争中は全然食べられず、ゲンたちの一家はイナゴやイモを食べていました。これを見て僕は、毎日おいしいご飯を食べられることがどれだけ幸せなことか分かりました。そして8月6日午前8時15分広島に原子爆弾が投下されました。熱線や

爆風、高熱火災や放射線によって約14万人の人が亡くなりました。爆心地から1.2kmの場所で被爆したゲンは奇跡的に塀によって守られていたけど、ゲンがまわりを歩くとみんな肌が垂れ下がっていて爆風でガラスがつきささった人もいました。その光景はまさに地獄のようで大きな衝撃を受けました。一番ひどいと思ったのが放射線で爆発したときに外傷がなく無傷と思われた人も数年たって白血病やがんになって亡くなっている人がたくさんいたということです。原爆の被害の大きさを知り、やはり二度と同じことが繰り返されてはいけないとこの本を読んで強く思いました。

また今年8月4日にあった平和学習では大刀洗飛行場やその周辺の空襲とその被害について学習しました。昭和20年3月の2日間で180機の戦闘機によって約3000発の爆弾が落とされたことを知りました。3000発の爆弾が空から降ってくる

と思うととても恐ろしくなりました。学習で一番心に残ったのは特攻隊の学習です。実際に特攻に行った人の話の中で「特攻にいく前日は眠れないですよ。」と言っていました。僕は明日死ぬと分かっている時どんな気持ちだったんだろうと考えるだけで心が痛くなりました。

現在も続いているロシアによるウクライナ侵攻。僕はこのニュースを見るたびに「いつ終わるんだろう」と思います。侵攻からかなり月日はたったけど未だに終わる気配はありません。僕はこのまま続いていくと他の国も加勢して戦争をするのではないか、また原爆が落とされるのではないかなどの不安がつのります。

戦争は罪のない人の命や、続くはずだった人生、夢など全てを奪います。お互いが苦しみや悲しみを味わい、亡くなった人はもう二度と戻ってきません。これから先、戦争の記憶を伝える人がいなくなり戦争への恐怖

が薄れてしまうことがあってはいけません。僕たちが今できている当たりまえの生活は全て平和の上で成り立っています。戦争体験者の方から託されたこの悲惨な記憶を後世へ伝え、一人でも多くの人が戦争や核兵器の恐ろしさや平和の大切さを考えていくことが戦争をなくす上で大切なことだと思います。誰もが安心して「平和な毎日」を過ごせるように。